



# 全教北九州

新聞 全教北九州  
全教北九州市教職員組合  
発行責任者 中川喜久子  
2021.9.22

全教北九州 検索 人事委員会勧告特集 この新聞はすべての教職員に配布しています

## 人事委員会勧告 月例給は据え置き、ボーナスは引き下げ

### 今年も生活改善にはほど遠い勧告

9月16日、北九州市人事委員会は「職員の給与等に関する報告」を発表し、勧告をおこないました。その内容は、8月10日に発表された人事院勧告をほぼ踏襲したもので月例給は据え置き、ボーナスは0.15カ月分（期末手当の支給月数に反映）を引下げるもので、今年も生活の改善にはほど遠い内容となりました。

#### 実質賃金は大幅減

教員の21年度平均年間給与は、5万8千円（0.91%）の減額となりました。北九州市の行政職平均年間給与の勧告では、本年度の改定後平均給与は5年前と比較して、25万4千円の減額です。消費税の引き上げ、社会保険料等の負担増を加味すれば実質賃金は大幅な減額となります。

今回の勧告で、時間外勤務手当や休日勤務手当が支給されない教員にとっては、ボーナスの引き下げだけでも生活の質の悪化は避け

られません。また、長時間過密労働への適正な給与という側面からも、収入の減額は納得できるものではありません。

#### 時間外勤務のない職場環境を！

勧告では、教職員の長時間労働の改善にも言及しています。勧告ではその意義を「教職員の健康保持」「教育の質の維持向上」のために重要と述べています。まずは教職員の納得のもとでの「業務の精選」の具体化を進め、時間外勤務のない職場環境にしていくことを求めます。

#### 子どもと教職員が楽しく、安心して生活できる学校に

### いのちと安全に関わる施策の充実を求める

全教北九州は、5月に「バスケットボール落下事故再発防止に関する要求書」（12日）、「新型コロナウイルス感染症対策に関する要請書」（19日と27日）を教育委員会に提出しました。これらの要求・要請は、子どもと教職員のいのちと安全にかかわる重大な事案で、早急な対応が必要です。

バスケットボール落下の教訓を今後の安全施策にいかせ！

教育委員会は、7月7日「バスケットボール更新について」の通

知を出しました。通知では、設置後25年経過したもの、25年未満でも安全性に問題のあるものは更新するといったものです。

ようやく9月からバスケットボールは順次更新が始まるということ、学校現場も安心して授業が行えるようになると安堵しています。学校には、遊具を含め日常的に安全点検が必要な施設・設備が多数ありますが、教員による目視に依存しているのが現状です。

今回の事故は予期せぬ事故ではなく、想定内の事故であり、施設・設備の管理体制の問題です。この事故を教訓とし、専門業者による定期的な検査をルール化するなどの施策を求めています。

学校での抗原検査は負担が大きすぎる

厚生労働省の調査では、9月の感染場所は「学校など」の割合が8月と比較して小学校では4%増、中学校は3%増と拡大傾向です。夏休みが終わり、学校での接触機会が増えたことが背景にあります。

北九州市でも、児童生徒・教員の陽性確認に伴う学級閉鎖・休校が増えました。

萩生田文部科学大臣は8月20日の記者会見で、学校での抗原検査実施に言及しました。学校での抗原検査は、医療機関への連絡、導線の確保、廃棄物の処理手順の策定、保護者への事前の通知と同意書の取得など現場への負担が大きくなり、さらに教職員の感染リスクを高めるため反対です。また抗原検査は、医療従事者の指導の下で適切な感染防護を取りながら実施するもので学校でできるものではありません。

### 北九州の戦争遺跡

#### 蕪島水上特攻基地 (門司区)

門司区喜多久にある「もじ少年自然の家」から約1.7キロ先に蕪島があります。太平洋戦争末期、この一帯には自然盗掘を利用した陸軍の特攻艇（「四式肉薄攻撃艇」、通称「マルレ」）の秘匿基地がありました。

「マルレ」は全長5.6メートル、全幅1.8メートルの合板製の船体に250キロ爆雷1個または120キロ爆雷2個を後部に搭載し、60馬力程度の自動車用エンジンにより海上を時速約45キロ程度で航行可能なものでした。

攻撃方法は敵の上陸地点を予想し近くに洞窟などを利用した秘匿基地を作り、上陸船団が接近すると夜間に数十隻からなる攻撃隊で一斉に攻撃、体当たりもしくは至近への爆雷投下を行うというものでした。

蕪島周辺は、採石場のため削られています。が、「マルレ」を格納していた横穴が現存しています。

# 「20人学級」と教員増を実現しよう

ゆきとどいた教育をすすめるための実行委員会「教育署名」はじまる

全教北九州は、今年も保護者や市民のみなさんと「ゆきとどいた教育をすすめるための実行委員会」をつくり、署名・請願に11月まで取り組みます。教育予算の増額、少人数学級の拡充、教育の無償化、教育条件や施設の改善、特別支援学校の設置基準の策定、特別支援学級の編成基準を1クラス6名に、養護教諭の複数配置の拡大、学童保育の充実など、内容は多岐に渡っています。

## 小中高学校の20人学級、特別支援学級の6人学級を実現しよう

私たちは、どの子もすこやかに成長してほしいと心から願い、少人数学級の実現を求め請願を続けています。このような少人数学級を求める多くの声、自治体での意見書採択等の動きに押され、義務標準法が改正され小中学校での35人以下学級が実現しました。附帯決議では中学校での35人以下学級を検討することなどが盛り込まれました。今後は、中学校や高校も含めて、「20人学級」を展望したさらなる少人数学級の実現、新型コロナウイルス変異株から子どもたちのいのちと健康を守るために、緊急に20人程度での授業ができるため



の教育条件整備が必要です。

北九州市では、2021年度から35人以下学級が小学校の全学年で国に先だつて実施されたことを歓迎しています。しかし課題もあります。

中学校では1年生で35人学級が実施されていますが、2・3年生は学校裁量となつています。また、この独自措置は加配教員を担任に流用して学級増に対応しています。定数どおりの教員配置がない状況で、新型コロナウイルス感染症防止対応が加わり、学校現場の多忙さは限界に達しています。

ゆきとどいた教育と現場の多忙さの解消には、学級増に応じた教員の増加が必要です。北九州市は独自で学級編制基準を制定できます。独自の施策として、小中学校のすべての学年で20人学級、特別支援学級では6人学級を実現しましょう。

## OECD諸国並みの教育予算で大学まで無償化を

また、国に対しては、国の責

任で、小中高すべての学校で20人学級を展望した少人数学級実施のための教育条件の整備、義務・高校標準法を改正し抜本的に正規・専任の教職員を増やし、私立高校でも教職員数を増やせるよう私立高校等経常費助成補助を大幅増額することなどを求めています。また教育予算をOECD（経済協力開発機構）諸国平均4.1%まで引き上げれば、公立・私立ともに就学前から大学まで教育の無償化は可能です。

## 全教北九州のとりくみ

9月4日（土）戸畑駅前でスタート署名を行いました。ペーパーを押ししたお母さんたちが足を止めて協力くださるなど、関心の強さを感じ、1時間に27筆集まりました。駅頭での署名活動は10月、11月も実施します。コロナ感染対策として、テーブルの上において用紙に記名してもらおう方法を取っています。

また労働組合や市内の小中学校、特別支援学校のPTAなどにも協力をお願いしています。

## 教育のつどい

憲法と子どもの権利条約がいきって輝く教育と社会を確立しよう



8月19日から22日まで「みんな21世紀の未来をひらく教育のつどい」教育研究全国集会2021」がオンラインで開催されました。

19日の記念講演では山極寿一さん（総合地球環境学研究所所長）が「教育の原点とは何か」と題して、サルやゴリラの研究を通して見える人間社会や学校

て何？〜ジェンダー平等を通して考える〜で、参加者がともに語りあいました。

21日は教科教育の14の分科会、22日は教育課題の16の分科会が両日併せ30の分科会が開催されました。北九州からも自宅やサテライト会場から教職員など60人が参加しました。

## 核兵器のない安心な世界を求めて

女性部 黄金町商店街で「ゆかたで行動」

8月7日（土）女性部は、原水禁止世界大会に関連したオンライン集会「核兵器なくそう女性のつどい」に参加したあと、毎年行っている「ゆかたで行動」を行いました。

参加者は組合事務所近くの黄金町商店街を横断幕を持って歩き、商店街の人や買い物客のみなさんと楽しく交流することができました。

核兵器禁止条約は2021年1月11日が発効しましたが、日本はまだ署名していません。



教育のおかしさを指摘し、コロナ禍を経てこれからの教育のあり方について話されました。20日は4つの教育フォーラム（①語ろう！コロナ禍の子どもたち、②タブレットがやってきた教育のICT化と子どもたちと安心して楽しく学べる学校の実現を、③コロナ禍の教育を考える、④多様性